

予 算 要 求 資 料

令和6年度当初予算

支出科目 款：商工費 項：商工費 目：鉱工業振興費

事業名【新】ぎふアントレプレナーシップ教育事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

商工労働部産業イノベーション推進課 電話番号：058-272-1111(内3750)

スタートアップ推進係

E-mail：c11352@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 14,161 千円 (前年度予算額： 0 千円)

<財源内訳>

| 区 分 | 事業費 | 財 源 内 訳 | | | | | | | |
|-----|--------|------------|------------|------------|------------|-----|-----|-----|------------|
| | | 国 庫 支出金 | 分担金 負担金 | 使用料 手数料 | 財 産 収 入 | 寄附金 | その他 | 県 債 | 一 般 財 源 |
| 前年度 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 要求額 | 14,161 | 7,076 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 7,085 |
| 決定額 | 14,161 | 7,076 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 7,085 |

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

経済が低迷し、人口減少・少子高齢化が本格化する中であっても、地域の活力を失うことなく持続可能な「清流の国ぎふ」づくりを進めるには、県の雇用・所得・財政を支える新たな産業の芽をであるスタートアップを生み出し、育成する必要がある。

アントレプレナーシップは、身近な課題を発見し解決する力や、他者と協力するコミュニケーション力など、社会に出た時に求められ、とりわけ新しい価値を創造し、イノベーションを牽引するスタートアップにとって、なくてはならない能力である。

このため、将来的にスタートアップを創出していく観点から、未来を担う若い世代に対してアントレプレナーシップを学ぶ機会を提供する必要がある。

(2) 事業内容

起業に興味がある中高生等を対象に、課題解決能力やコミュニケーション力の向上に資するワークショップを3圏域で開催する。

開催にあたっては、大学生や既存企業の職員にスタッフとして参加してもらうほか、保護者にも見学してもらうなど、県内の起業に対する気運醸成も図る。

(3) 県負担・補助率の考え方

県内の起業に対する気運醸成を図ることで、新産業・新サービスの創出、新たな地域経済の担い手を創出することは県経済の振興につながるものであり、県負担は妥当。

(4) 類似事業の有無

なし

3 事業費の積算 内訳

| 事業内容 | 金額 | 事業内容の詳細 |
|----------|--------|--------------------|
| 報償費 | 32 | 委員謝金 |
| 旅費 | 11 | 委員費用弁償 |
| 需用費 | 4 | 消耗品等 |
| 役務費 | 3 | 通信運搬費 |
| 委託料 | 14,087 | アントレプレナーシップ教育事業委託費 |
| 使用料及び賃借料 | 24 | 会場使用料 |
| 合計 | 14,161 | |

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

「清流の国ぎふ」創生総合戦略 II - 1 - (1) の施策として、アントレプレナーシップ研修の実施を記載。

(2) 国・他県の状況

国においてもスタートアップの育成を重点のひとつとして取り上げ、人材の育成を支援しての方針を掲げており、アントレプレナーシップ教育に取り組んでいる。

愛知県では、小中高生を対象とした起業家精神育成事業「AICHI STARTUP SCHOOL」を実施している。

(3) 後年度の財政負担

県経済の振興につながるものであり、県負担で実施していく。

(4) 事業主体及びその妥当性

将来の県経済を支える人材育成に資する事業であり、県が実施することが妥当である。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

起業家精神を有する人材育成に向け、アントレプレナーシップ教育を受講した中高生を令和9年までに累計460人とする。

（目標の達成度を示す指標と実績）

| 指標名 | 事業開始前 (R5) | R4年度 実績 | R5年度 目標 | R6年度 目標 | 終期目標 (R9) | 達成率 |
|--------------------|---------------|------------|------------|------------|--------------|-----|
| ①アントレプレナーシップ教育受講者数 | 0 | 0 | 60 | 160 | 460 | |
| ② | | | | | | |

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

| | |
|-------|--|
| 令和2年度 | <p>・取組内容と成果を記載してください。</p> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p> |
| 令和3年度 | <p>・取組内容と成果を記載してください。</p> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p> |
| 令和4年度 | <p>・取組内容と成果を記載してください。</p> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p> |

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

| | |
|--|--|
| ・ 事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない | |
| (評価) | |
| ・ 事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない | |
| (評価) | |
| ・ 事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている | |
| (評価) | |

(今後の課題)

| |
|---|
| ・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 国の動向や他県(愛知県)などの取組みについても参考にしながら、アントレプレナーシップ教育の効率的な実施方法を検討する。 |
|---|

(次年度の方向性)

| |
|---|
| ・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 県内の起業に対する気運醸成を図り、新産業・新サービスなど、新たな地域経済の担い手を創出することは県経済の振興につながるものであり、継続して事業に取り組んでいく。 |
|---|